

《担当者名》○白石 淳 [jun-jun@hoku-iryo-u.ac.jp]、福間 麻紀[m-fukuma@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

子どものたちの日常生活は、どのようなものなのか。その過ごし方は、どの子どもの生活も「普通」という言葉で表せるのか。「普通でない」過ごし方をした子どもたちは、どのような生活をしているのか。その差はどこにあるのか。この授業では、このような疑問に答えるために、福祉の基本的な事項である「自己選択、自己決定」を踏まえながら、子どもたちが日常生活を送る際のターニングポイントとなる「選択」に焦点をあて、その子どもたちの教育に係わる問題を取り上げ、本来自由であるはずの選択の自由が阻害される要因を、福祉学的な視点により追求する。また問題を生じさせている要因を解決するための支援方法などについても考察する。

また、子どもの選択に影響を与える貧困・家族についての概念を理解し、現状の課題を考察する。

【学修目標】

授業終了後には、次に示されたことができるようになる。

- 1)日常生活における「選択の自由」がいかに重要なのかを、福祉の視点で捉えることができる。
- 2)上記の問題を阻害する要因を、他人に説明することができる。
- 3)上記の問題を解決する糸口を掴むことができる。
- 4)選択に影響を与える貧困・家族についての概念を説明できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|------------------------|--|-----|
| 1 | 授業のガイダンス、バリアフリーが必要な理由 | 授業を紹介するとともに、学ばすでの準備・注意事項などについて説明し、学び方を理解する。また、バリアフリーはノーマライゼーションを実現する手法であることを学ぶ。 | 白石 |
| 2 | バリアフリーの意味と従来・これからの考え方 | バリアフリーの種類を学び、従来とこれからの考え方の違いを学ぶ。これらのことは、「障害」「障がい」という用語の使い方にも関係することを知る。 | 白石 |
| 3 | バリアをもととした選択の自由を阻害する要因 | 子どもが進路の選択をする際に自由な意思で選択できない場合があることを知り、選択上のバリアフリーについて学ぶ。 | 白石 |
| 4 | 「どうせ」というバリアと同調圧力の存在 | 子どもしばしば用いる「どうせ」という言葉の意味を考える。その生成要因を探求する。また、「茶色い朝」の物語の意味すること(自己決定ができないようになる過程)を考える。 | 白石 |
| 5 | 空気を読むの意味 | 同調圧力、同調行動の意味、内容を学ぶ。「空気を読む」ことを学び、このことが社会的な事件にもなることも知りる。また、子どもたちも空気を読み行動していることを理解する。 | 白石 |
| 6 | 同調圧力と多数決の原理、呪術性 | 「多数決は、本当に多数の意見なのか」ということを、同調圧力の視点から理論的に学ぶ。あわせて、呪術性にて決まることを学ぶ | 白石 |
| 7 | 非行をおこした子どもの生活環境 | 非行を起こす要因、再犯をくり前す要因を、これまでの学修を踏まえて学ぶ。 | 白石 |
| 8 | 矯正教育の内容 | 少年院における教育の内容を学ぶ | 白石 |
| 9 | 虐待を受けている子どもの生活環境 | N町の殺人事件をとりあげ、分析を行いながら虐待が生じる原因、問題点を学ぶ。その際に、同調圧力の視点で考える。 | 白石 |
| 10 | ケーパビリティの理論と選択・生活環境との関係 | ケーパビリティの理論を学ぶ。その理論をもととして、これまで学んだ内容の課題を考える。 | 白石 |
| 11 | 貧困の定義 | 貧困の定義に関わる議論について理解し、定義の問題による政策的な影響について考察する。 | 福間 |
| 12 | 貧困の経験 | 不平等、社会的区分、ライフコース、ジェンダーによ | 福間 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|-------------|---|-----|
| | | る貧困の形成について理解し、貧困の可視化されにくい構造的な要因について考察する。 | |
| 13 | 貧困についての言説 | 貧困者を異なるものとする〈他者化〉について理解し、それがもたらす問題について考察する。 | 福岡 |
| 14 | 貧困とエージェンシー | 行為における主体性（エージェンシー）について理解し、その重要性について考察する。 | 福岡 |
| 15 | 家族における二次的依存 | 家族に存在する「二次的な依存」を理解し、ケア役割による家族内の依存関係の問題を考える。 | 福岡 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業の取組状況(意欲、態度、フィールドワークの内容) 70% 課題の提出 30%

【教科書】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

小川利夫他(2001)「教育福祉論入門」光生館

藤本一勇(2003)「茶色の朝」大月書店

日本弁護士連合会(1995)「子どもの権利マニュアル」こうち書房

ルース・リスター著・松本伊智朗監訳(2011)「貧困とは何か」明石書店

松本伊智朗編著(2020)「シリーズ子どもの貧困1 生まれ、育つ基盤—子どもの貧困と家族・社会」明石書店

マーサ・A・ファインマン著・上野千鶴子監訳(2003)「家族、積みすぎた方舟 ポスト平等主義のフェミニズム法理論」学陽書房

【学修の準備】

各授業回の終了時に、次回まで取り組む事項を伝えるので、必ず取り組むこと。

教育・子どもに関する「新聞記事」に注目し、自分なりの考えを持つこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得するという臨床福祉学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。